

表紙：クラフト“実りの秋を楽しむ ぶどう狩り”

大きな木の枝いっぱいに、紫や緑のぶどうがたわわに実っています。

よく見ると、ぶどうの房の中には子どもたちのかわいらしい笑顔ものぞいています。

木の下では、子どもたちやリスたちが秋の収穫を楽しみ、にぎやかな時間が広がっています。

実りの季節の豊かさと、みんなの笑顔が重なり合う、あたたかな光景ですね。

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

47

アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2026年9月発行 Vol.47

次回 11月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★カナダの先生たちが見た日本のキンダーキッズ

★インフィニティの中国語学習 ★Grad Summer Events

★K3キャンペレポート ★Voices of Tomorrow Speech Contestのお知らせ



日本の心と、英語の力。Kinder Kids inc.



カナダの先生たちが見た 日本のキンダーキッズ

この春、キンダーキッズでは、カナダのクラークソン校から Bhavini 先生、オークビル校から Karina 先生を日本へお迎えしました。お二人にとって初めての日本滞在となった今回の訪問では、関西エリアの各校を見学し、日々の保育や子どもたちの様子、先生たちの取り組みに触れながら、日本のキンダーキッズについて理解を深める機会となりました。

◆学校見学を超えた、学び合いの時間

約2週間の滞在中、お二人は阿波座校、西宮校、神戸シーサイド校、天王寺校をはじめとする関西エリアの各校を訪問しました。各校では、教室での子どもたちの様子を見学するだけでなく、先生たちと交流しながら、カリキュラムや評価方法、職員体制、日々の運営についても意見を交わしました。同時に、先生同士が直接顔を合わせて対話することで、互いの考え方や日々の工夫への理解もより深まってきました。

日本を訪れることは、Bhavini 先生と Karina 先生にとって大きな楽しみの一つでした。しかし今回の交流プログラムは、単なる学校見学ではなく、日本とカナダそれぞれの教育実践や学校運営について学び合い、国を越えた連携を深めるための貴重な機会でもありました。

滞在中に改めて感じられたのは、国や文化、日々のルーティンには違いがあっても、子どもたちの成長を支えたいという想いは共通しているということです。キンダーキッズが大切にしている教育への願いを、世界の仲間と共有する時間となりました。



滞在中、日本の各校の先生たちと、教育について意見を交換



カナダでのInstagramの取り組みについて
キンダーキッズ本部で発表

◆同じゴールへ向かう、多様なアプローチ 共通カリキュラムに表れる、それぞれの工夫

今回の訪問を通して見えてきたのは、同じカリキュラムが、それぞれの教室で先生の個性や工夫を通して展開されていることでした。

カナダでも日本でも、共通の教育フレームワークや学習目標をもとに、フォニックス、算数、ジャーナルライティング、スポーツデー、季節の発表会など、多くの活動に取り組んでいます。一方で、子どもたちへの伝え方や活動の進め方には、国や教室ごとの違いがあります。

日本では、子どもたちが第二言語として英語を学ぶため、先生たちは語彙の定着や発話を促す工夫を日々の保育に丁寧に取り入れています。同じゴールに向かいながらも、そこに至るアプローチは一つではないことを、実際の教室の中で確認する機会となりました。



共通カリキュラムが先生の工夫で展開される
日本のレッスンを、カナダの先生も体験

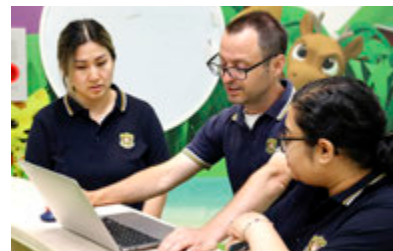


ジャーナルレッスンに取り組む子どもたちを
サポートするBhavini先生

◆教室見学から見えた、新しい視点

阿波座校で見学したK3のCircle Timeでは、ゲームや歌、体の動きを取り入れながら、子どもたちの集中力や発話を引き出す先生たちの工夫を見ることができました。子どもたちが楽しみながら参加し、自然に声を出せるような活動の組み立ては、カナダの先生方にとっても印象に残るものでした。また、各校の先生やリーダーとの対話では、スケジュール、職員体制、子どもたちの成長の捉え方、サポート体制など、学校運営に関わる幅広いテーマについて意見を交わしました。中でも、日本で行われている音韻認識やリーディングの習得状況を確認する取り組みは、カナダとは異なる視点として印象に残ったようです。

今回の交流は、教室を見学するだけでなく、お互いの実践を共有し、子どもたちの成長をよりよく支えるために学び合う貴重な時間となりました。



日本の先生から、レッスンの進め方や
子どもたちの成長の捉え方について学ぶ



教室内の掲示やレッスン環境を見ながら、
日本での学びの進め方を確認

日本のキンダーキッズで出会った、新しい学びと温かな体験



Bhavini先生より

◆フォニックス・サイトワードへの取り組みとCircle Time

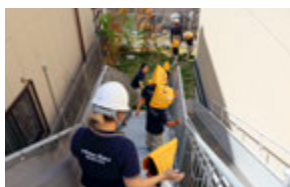
今回の日本訪問で特に興味深かったことの一つは、フォニックスで読む単語や、よく使われるサイトワードについて、子どもたちの理解をどのように確認しているかを学べたことです。カナダでは、ラーニングポートフォリオを通して子どもたちの成長を確認しているため、日本のキンダーキッズではどのように取り組んでいるのかを知ることができ、新しい視点につながりました。

阿波座校で見学したK3のCircle Timeも、大きな学びとなりました。3人の先生によるCircle Timeを見学する機会があり、ゲームや歌、体の動きを取り入れながら、子どもたちが夢中になって楽しめる活動をたくさん見ることができました。自分のクラスでもぜひ取り入れたいですし、各学年の先生方にも、それぞれの年齢に合わせてアレンジしながら活用してもらえたらと思っています。

◆心に残った、日本のキンダーキッズでの体験

西宮校では、地震を想定した避難訓練に参加しました。子どもたちが先生の話をよく聞き、落ち着いて行動している姿がとても印象的でした。カナダではあまり経験する機会がないため、日頃から安全への意識を育てることの大切さを感じました。また、子どもたちのバースデーセレブレーションと一緒に参加できたことも、とても温かい思い出です。スポーツデイの練習では、子どもたちが集中して取り組み、友だちと協力しながら複雑な動きやフォーメーションを覚えている姿に驚きました。

神戸シーサイド校での体験も、とても印象に残っています。カナダにはないアドベンチャーブランドならではの活動を通して、子どもたちが教室の外へ出て、実際に触れたりしながら学ぶ姿を見ることができました。Free Artの活動やビーチ探索を通して、創造性や好奇心、探究心を自然に広げている様子が印象的でした。



カナダでは経験の少ない地震避難訓練に参加し、子どもたちの落ち着いた行動に感心



子どもたちと一緒に参加した、温かなバースデーセレブレーション



アドベンチャーならではの屋外Free Artで、子どもたちの創造性に触れるBhavini先生

日々の生活の中で育まれる「自分でできる力」と先生たちの支え



Karina先生より

◆日々の生活で育まれる自立心

日本のキンダーキッズで特に印象に残ったことの一つは、子どもたちが日々の生活の中で、身の回りのことに進んで取り組む姿でした。幼い年齢から、自分の持ち物を整理したり、活動の準備をしたり、着替えや片付けなどに自分で取り組んでいる様子に驚きました。

特にナーサリーの子どもたちが、自分でランチバッグを取り出し、衣服を片付け、日々の生活の中で自分にできることを一つひとつ行っている姿は、とても印象的でした。同じ年齢のカナダの子どもたちと比べても、その自立する力には大きな違いを感じました。そして、その力は自然に身についているものではなく、先生たちが子どもたちの年齢や発達に合わせて、少しずつ自分でできることを増やせるように支えているからこそ育まれているのだと感じました。子どもたちが安心して挑戦できる環境の中で、生活スキルや自信が丁寧に育てられていることに、とても感銘を受けました。

◆先生同士のつながりから得た刺激

さまざまなクラスや先生方の保育を見学する中で、多くのアイデアや刺激を得ることができました。日本の先生方の情熱や創意工夫、そして子どもたちへの真摯な姿勢に触れ、自分自身の保育を改めて見つめ直す良い機会となりました。これからは、今回の学びを生かしながら、新しい取り組みにも積極的に挑戦していきたいと思っています。

今回の研修では、以前カナダで私のクラスを見学してくださった日本の先生方と再会できたことも、大きな喜びの一つでした。今度は私が先生方のクラスを訪問し、実際の保育を見学することで、新たな視点や多くの学びを得ることができました。

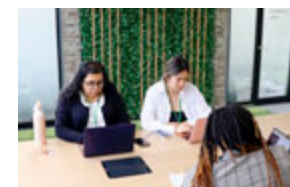
この経験を通して、国や文化を越えて先生同士がつながり、学び合うことの大切さを改めて実感しました。



ナーサリーの保育に関わりながら、日々の生活の中で育つ自立心に触れる



アドベンチャーならではの屋外活動を通して、子どもたちの学びを支える工夫を学ぶ



先生同士の対話を通して、日本での保育や学校運営について理解を深める

今回の滞在を通して、多くのアイデアが共有され、先生同士のつながりがより深まりました。国やまた、海外トランスファープログラムを通して、子どもたちやご家族もカナダやハワイのスクールしながら、子どもたち一人ひとりに、より豊かな教育経験を届けてまいります。

文化、日々のルーティンには違いがあっても、子どもたちの成長を支えたいという想いは同じです。で継続した学びを経験することができます。キンダーキッズはこれからも、世界の仲間と学び合い



ことばを学び、文化にふれ、世界へつながる

インフィニティの 中国語学習

▶▶▶世界へ視野を広げる、インフィニティの中国語教育

インフィニティ国際学院初等部では、英語・日本語に加え、中国語を学ぶマルチリンガル教育を行っています。中国語は、単に「3つ目の言語」として学ぶだけではありません。異なる文化や価値観に触れ、世界を見る視野を広げるための大切な学びの一つです。

中国語プログラムを担当するLulu先生は、2022年の開校時から、HSKの教材などを参考にしながら、カリキュラムや教材を一から作り上げてきました。開校当初は、初めて中国語を学

ぶ子どもがほとんど。幼児向けの授業でも取り入れているフラッシュカードや歌、ゲーム、ダンスなどを使いながらスタートしましたが、授業を重ねる中で、小学生には楽しさだけでなく、「自分で考える」「学んだことを使う」「繰り返し練習する」といった、より深い学びが必要だと感じたそうです。

そこで、レッスンノートやアクティビティシートなど、小学生向けの教材を独自に作成。KahootやSeesawといったデジタルツールも取り入れ、Chromebookを使いながら中国語を学ぶなど、インフィニティのICT教育ともつながる授業へと発展させていきました。子どもたちの興味や学び方を観察しながら改善を重ね、この4年間でインフィニティならではの中国語プログラムが少しずつ形になってきました。

▶▶▶「学ぶ」から「使う」へ 広がる中国語の授業

現在の授業では、発音や語彙、会話の練習はもちろん、歌やゲーム、中国書道や切り絵などの文化体験、ICTを使ったクイズや録音、ロールプレイなど、さまざまな方法で中国語に触れています。特に印象的だったのが、「買い物」をテーマにした授業です。子どもたちはCanvaを使って自分のお店のポスターを作り、商品や値段を決め、中国語での商品名を調べました。その後は教室を小さなマーケットに見立て、店員役とお客さん役に分かれて、中国語で実際にやり取りをしました。単語を覚え



発音や語彙、会話の学習にICTも取り入れ、学んだ中国語を実際に使う機会を大切に、インフィニティの中国語レッスン。



友達を紹介する表現を学び、みんなの前で中国語で発表。学んだ語彙や文型を、実際のコミュニケーションにつなげています。

るだけではなく、こうした実体験を通して、「中国語を使って何かをする」経験を大切にしています。中国語と日本語のつながりも、子どもたちにとって興味を広げるきっかけになっています。中国語の文字を見て「この漢字、日本語でも使う!」と気づいたり、書道や季節の行事など、日本と中国の文化の似ているところ、違うところを発見したり。言葉を学ぶことから、文化への好奇心も自然と広がっています。

▶▶▶4年間の学びを力に、HSK1級へ挑戦

そして昨年度、約4年間中国語を学んできた4年生の子どもたちが、国際的な中国語能力試験「HSK1級」に挑戦しました。これまで積み重ねてきた学びを、授業の中だけではなく国際的な基準で確かめること。そして子どもたち自身が、明確な目標を持って中国語学習に取り組むことが大きな目的でした。試験に向けて、1年生から学んできた語彙、文型、発音、リスニング、リーディングなどを改めて総復習しました。試験が近づくと、過去問題や本番形式の問題にも繰り返し取り組みました。家でも復習できるよう、家庭学習用のノートを用意し、授業内外で準備を重ねました。準備が本格化すると、決して楽なことばかりではありませんでした。それでも子どもたちは途中で諦めることなく、友達同士で励まし合いながら最後まで挑戦を続けました。その結果、4年生の80%がHSK1級に合格。4年間積み重ねてきた中国語学習が、一つの目に見える成果となりました。合格という結果を喜ぶ一方で、それ以上に、子どもたちが挑戦の過程で身につけた知識や自信、粘り強さに大きな価値を感じています。繰り返し学ぶ中で、聞き取れる言葉や読める言葉が増え、自分自身の成長を実感することで、中国語を使うことへの自信も少しずつ高まっていきました。試験に向けて最後まで取り組んだ経験そのものが、子どもたちにとって大きな成長につながっています。

▶▶▶「学びに終わりなし」中国語から広がる世界

目指しているのは、「試験合格のために学ぶ中国語」ではありません。将来、中国語を話す人と出会ったときに、自分から声をかけてみようと思えること。異なる文化や価値観に興味を持ち、世界の人々とつながろうとすること。そして中国語をきっかけに、4つ目、5つ目の言語にも興味を広げていくこと。

最後にLulu先生が教えてくれたのは、

「学无止境(xué wú zhǐ jìng)ー 学びに終わりなし」という中国の四字熟語。

中国語との出会いが、子どもたちにとって新しい言葉や文化、そして世界へ踏み出していくための一つの入口になってほしい。そんな思いが、インフィニティの中国語プログラムには込められています。

HSKとは?

HSK(漢語水平考試)は、中国語を母語としない人を対象とした中国語能力試験。今回受験した1級は初級レベルに位置づけられている(2026年現在、従来の6段階から新たな3段階9レベル制へ移行中)。リスニングやリーディングなどを通して、中国語の習熟度を測る。



4年間の中国語学習の成果を確かめるため、4年生がHSK1級に挑戦。総復習や過去問題に取り組み、試験に向けて準備を重ねました。



遠足で中国文化の「飲茶」を体験。食事を楽しみながら、中国ならではの食文化や習慣について学びました。



Grad Club
Creating bilingual young adults

Summer Events

2026



初企画

関東

八丈島Camp

島全体が冒険の舞台! 八丈島で挑んだ3日間

今年、関東 Grad Club では初企画となる八丈島キャンプを実施しました。「流人と島に眠る宝」をテーマに、普段なかなか訪れる機会のない島を舞台に、地域ならではの歴史や文化、自然に触れながら、仲間と協力してさまざまなミッションに挑戦する3日間となりました。

到着後は、八丈島で実際に使われてきた道具や島の歴史について学ぶことからスタート。その後はチームに分かれ、農園や商店、滝、海、町など島内のさまざまな場所を巡りました。単に観光するのではなく、その場所で実際に体験し、地域の方に自分たちから声をかけて必要な情報を聞き出したり、次に何をすべきかを話し合ったりしながらミッションを進めました。はじめは、役割分担や自分の考えをどう伝えるか模索する姿も見られましたが、活動を重ねるにつれて、仲間とアイデアを出し合い、自分たちで問題を解決する場面が増えていきました。



英語を使って手がかりを探し、仲間とアイデアを出し合いながら次のミッションを解き明かしました。



指令通り野菜をGET! 地域の方とのやり取りを楽しみながら、ミッションをクリアしました。

体験を仲間へつなぎ、大きな成長へ

特に印象的だったのが、「自分たちが体験したことを、今度は仲間に伝える」姿です。海で釣りを体験した子どもたちは、獲れた魚を使った新鮮な寿司を別のスクールから参加した仲間と味わい、伝統的な太鼓を学んだ子どもたちは、覚えた演奏をキャンプファイヤーでほかの子どもたちに教えました。それぞれの経験が共有され、最後には一つの大きな体験へとつながっていきました。



八丈島の海で釣りに挑戦。見事に魚を釣り上げ、満面の笑みを見せてくれました。



覚えた太鼓の演奏をキャンプファイヤーで仲間に教え、みんなで体験を共有しました。

2泊3日を共に過ごす中で、スクールを越えた新しい友達も生まれ、互いに声をかけ、助け合う姿が多く見られました。また、英語を実際の場面で使う機会にもなりました。最初は大人のサポートが必要だった場面でも、最終日には自分たちで考え、行動しようとする姿が増え、子どもたちの自立心や自信の高まりを感じるキャンプとなりました。



ミッションでGETした食材を使って夕食づくり。仲間と役割を分担しながら調理しました。



島の踊りを練習。仲間と声をかけ合いながら動きを揃え、チームワークを深めました。

関西
Dolphin Trip



関西
Night Safari Camp



関東

Rising Field Camp



関西 名古屋

ハチ北 Camp



関西
職業体験



とびきりの体験がつまった1泊2日

K3 CAMP 2026

今年も関西・関東・福岡・名古屋の4エリアで、
K3クラスの子どもたちが1泊2日のK3キャンプへ。

家族と離れ、友だちや先生と過ごす2日間は、楽しいだけでなく、
身の回りのことを自分で行い、仲間と力を合わせる大切な経験です。

関西では、須磨シーワールドや水遊びなどを楽しみ、今年は自分たちで朝ごはんづくりに挑戦。
みんなでソーセージを焼き、できたての朝ごはんを味わいました。関東では、丹沢の自然の中で
川遊びと魚つかみ。逃げる魚を素手で追いかけて、自分たちで捕まえた魚が夕食に登場すると、大
きな歓声が上がりました。



福岡では、森や川で昆虫やカエルなどの生き物を見つけて観察したほか、ヨーヨーやプレート作
りにも挑戦。夜にはキャンプファイヤーを囲み、歌やダンス、スモアを楽しみました。名古屋では、
悪天候で予定が変更となる中でも、虫かごづくりや森探索、カレーづくりなどを元気いっぱい楽
しみました。夜には花火も楽しみ、思い出いっぱいのキャンプとなりました！



友だちと笑い、
協力しながら過ごした
特別な1泊2日は、
子どもたちをまたひと回り
成長させてくれました。

Voices of Tomorrow



SPEECH 2026 CONTEST



スマ留
全面サポート！
親子留学を
プレゼント！

**Championには
豪華2大特典！**



入賞者には株式会社アルクより、
「音声タッチペン付き
アルクのえいご絵じてん SUPER」
をプレゼント！ また、参加者全員に特典あり！



MAGMA RESORT
**無料宿泊
招待券を
贈呈！**

未来を切り拓く、私の夢。世界を舞台に、自分の力を発揮する日を夢見て

[日時] 2026年11月29日(日)
12:00~16:00(予定)

[会場] 日本外国特派員協会
(FCCJ/外国人記者クラブ)

[対象学年] 小学1年生~小学6年生

[開催部門] 一般/オリジナル/グローバル

[エントリー費] 5,500円

※Grad Clubにて音声審査を行い、通過した方のみ参加

詳しくはこちらへ

Voices of Tomorrow Speech Contest 特設サイト

